

科目名	子ども家庭支援論	単 位	面接1単位	配当 年次	1年次	授業 形態	演習
教科書	『最新 保育士養成講座 第10巻 子ども家庭支援』『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会 編 (全国社会福祉協議会)						
持参物	特になし。						
備考	これまでに自分が体験した現実やそこから導き出された所見・所感、主体的な考察に基づく独創的な見解等、臆することなく積極的に授業内で紹介して下さい。						
授業内容	<p>授業内容の中核として、次の項目を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭支援の意義と必要性 ○子ども家庭支援の目的と機能 ○保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 ○子どもの育ちの喜びの共有 ○保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の支持 ○保育士に求められる基本的態度 ○家族の状況に応じた支援 ○子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ○子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 ○子ども家庭支援の内容と対象 ○保育所等を利用する子育て家庭への支援 ○地域の子育て家庭への支援 ○要保護児童やその家庭に対する支援 ○制度・行政上の仕組みにおける課題 ○子育て・子育てに対する社会の意識 						

科目名	社会的養護 I	単 位	通信 1 単位 面接 1 単位	配当 年次	1 年次	授業 形態	講義
教科書	改訂 1 版 新 保育士養成講座 第 5 巻 社会的養護と障害児保育 『最新 保育士養成講座』総括編集委員会 編（全国社会福祉協議会）						
持参物	上記テキストおよび筆記用具						
授業内容	<p>授業内容の中核として、次の項目を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代社会における社会的養護の意義とその理念 ○社会的養護の歴史的変遷 ○子ども家庭福祉としての社会的養護 ○社会的養護における子どもの権利擁護および自立支援 ○社会的養護の制度と法体系 ○社会的養護の仕組みと実施体系 ○社会的養護としての施設養護と家庭的養護 ○社会的養護に関わる専門職とその責務 ○施設養護の基本原理 ○施設養護のプロセス ○施設養護で用いられるソーシャルワーク ○社会的養護に関わる施設等の運営管理をめぐる現実と課題 ○社会的養護に関する倫理の確立 ○社会的養護と子どもの人権をめぐる諸問題 ○社会的養護の将来展望 						

科目名	子どもの理解と援助	単 位	面接1単位	配当 年次	1年次	授業 形態	演習
教科書	参考文献、教材等を適宜指示						
持参物	筆記用具						
備 考							
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 子どもの理解(意義と子どもとのかかわり) 3. 子どもの理解する視点(生活と遊び) 4. 子どもの理解する視点(保育者と子どもの発達) 5. 子どもを理解する視点(集団における育ち) 6. 子どもを理解する方法 7. 発達の連続性と就学への支援 8. 学修の確認(試験) 						

科目名	子どもの保健	単 位	面接1単位	配当 年次	1年次	授業 形態	講義
教科書	授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健テキスト 小林美由紀編著 診断と治療社						
持参物	教科書、ノート、筆記用具						
備 考							
授業内容	<p>対面での座学の授業形態をとる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保健について、様々な統計から子どもの置かれている現状について学ぶ 2. 子どもの身体的成長発達とその評価、また、生理的機能の発達について学ぶ 3. 子どもの健康状態の観察ポイントから子どもの示す異常の早期発見とその対応について学ぶ 4. 子どもの病気、特に感染症にてついて、保育所保育指針の感染症マニュアルに沿って学ぶ 5. 5での学びから予防接種にてついて接種時期や種類など感染症予防について学ぶ 6. 子どもの病気、特にアレルギー疾患について仕組みや様々な引き起こされる疾患について学ぶ 7. 入所前健康診断から入所後の保護者との情報共有について学ぶ 8. 妊娠期からの地域における行政の取り組みについて学ぶ 						

科目名	子どもの食と栄養	単 位	通信1単位 面接1単位	配当 年次	1年次	授業 形態	演習
教科書	「発育期の子どもの食生活と栄養」学研書院						
持参物	教科書、ノート、筆記用具、電卓						
備考	試験、授業態度等						
授業内容	<p><1日目>…食べることは、生命の維持や「心」と「体」の健やかな育ちに欠かせません。適切な栄養に関する知識に加え、子どもの食生活の現状と課題を踏まえ、こどもの発育・発達に合わせた段階別の望ましい食生活と栄養について学びます。</p> <p>① 子どもの健康と食生活の意義 ② 栄養に関する基礎知識 ③ 乳汁期・離乳期の食生活と栄養 ④ 幼児期の食生活と栄養</p> <p><2日目>…保育士が大きくかわる乳児期の食事について、調乳や離乳食の試食を通じて、食べる能力の獲得を体感します。また、「食を営む力」の基礎を培うための「食育」についても学びます。</p> <p>⑤ 調乳実習・離乳食の試食 ⑥ 食育について ⑦ 特別な配慮を要す子どもの食と栄養 ⑧ まとめ・課題提出</p>						

科目名	社会的養護Ⅱ	単 位	面接1単位	配当 年次	1年次	授業 形態	演習
教科書	特に定めず、適宜参考文献の紹介やプリントの配布を行っていきたい。						
持参物	特になし。						
備考	授業内で自らの思いや考えを求められた際は、臆せずそれらを論理的・具体的に述べてほしい。						
授業内容	<p>授業内容の中核として、次の項目を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的養護における子どもの理解 ○社会的養護の内容としての日常生活支援 ○社会的養護の内容としての治療的支援の実際 ○社会的養護の内容としての自立支援の実際 ○施設養護の生活特性とその実際 ○家庭養護の生活特性とその実際 ○個別支援計画の作成に向けたアセスメント ○個別支援計画作成の実際 ○記録および自己評価 ○保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 ○社会的養護に関わる相談援助の知識・技術 ○社会的養護に関わる相談援助の実際 ○社会的養護における家庭支援 ○社会的養護の諸課題 ○今後の社会的養護に関する展望 						

科目名	子育て支援	単 位	面接1単位	配当 年次	1年次	授業 形態	演習
教科書	特に定めず、必要に応じて適宜参考文献を提示する。						
持参物	筆記用具						
備考	<p>保護者に対する相談支援・子育て支援について、その具体的な展開の方法をソーシャルワークで用いられる相談援助技術をもとに学んでいく。そして、そこでは対象とする保護者それぞれの状況に適切に対応するための相談を受ける専門職としてふさわしい価値やコミュニケーション方法アセスメントの視点等を習得できるよう心がけ、ますます高まる子育て支援に対するニーズに対応し得る力量の獲得を目指す。</p>						
授業内容	<p>授業内容の中核として、次の項目を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者に対する保育相談支援・子育て支援の意義と役割 ○相談支援・子育て支援の具体的な展開方法としてのソーシャルワーク ○相談援助の意義と機能 ○相談援助の理論と方法 ○相談援助の記述・アプローチとその具体的な展開 ○支援の実際を理解するための事例検討 ○社会資源の活用と関係機関及び専門職との連携・協働 ○保育の特性と保育士の専門性をいかした支援の概要 						

科目名	乳児保育 I	単 位	面接 1 単位	配当 年次	2 年次	授業 形態	演習
教科書	乳児保育 I・II 中山書店 後藤由美・菊池篤子 著						
持参物	教科書・保育所保育指針						
備 考							
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 乳児保育の概要 2. 乳児保育の 1 日 3. 基本的な生活習慣の獲得と保育 1 4. 基本的な生活習慣の獲得と保育 2 5. 乳児の発達と保育内容 I 6. 乳児の発達と保育内容 2 7. 乳児保育の現状と課題 8. 学修の確認・試験 						

科目名	乳児保育Ⅱ	単位	面接 1 単位	配当年次	2 年次	授業形態	演習
教科書	乳児保育Ⅰ・Ⅱ 中山書店 後藤由美・菊池篤子 著						
持参物	教科書・保育所保育指針・乳児向け絵本 1 冊・裁縫道具・靴下ハイソックス) 1 足 ※靴下人形をつくります						
備考	動きやすい服装						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 乳児期の子どもの理解 2. 乳児保育における子どものための記録 3. 乳児の保育 4. 対人関係の発達と保育 1 5. 対人関係の発達と保育 2 6. 手作り保育教材の作成 7. 乳児保育における保育指導計画 8. 学修の確認・試験 						

科目名	子どもの健康と安全	単 位	1 単位	配当 年次	2 年次	授業 形態	演習
教科書	現場で役立つ！子どもの健康と安全演習ノート 小林美由紀編著 診断と治療社						
持参物	タオル、コップ（陶器でないもの）、スプーン、お茶						
備 考	食物アレルギー（卵・牛乳など）がある場合は授業開始前に申し出てください。						
授業内容	<p><1日目>…子どものからだについて理解し、実際に赤ちゃん人形を使って体験学習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 乳児の成長発達について、粗大運動・微細運動について月齢での変化を理解する。 ② 子どもの成長発達について、客観的に理解するために行う身体測定についてその意味を理解し、実際に測定してみる。 ③ 子ども、特に乳幼児に対する養護（抱っこの仕方、ミルクの飲ませ方、排気の仕方など）についてその意味を学び、実際に赤ちゃんの人形を使用し体験する。 ④ 子どもの示す様々な症状について、子どもの身体的精神的特徴を踏まえ、子どもの表現方法を考えながら、その対応方法を学ぶ。 <p><2日目>…子どもの病気について理解を深め、実践で生かすことができるようにする。また、より具体的な実践体験を通して、子どもの気持ちを体感する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの感染症について、子どもの命を守るために保育士ができることを学ぶ。 ② 様々な感染症から子どもを守る予防接種について理解する。 ③ 1日目に学んだ養護から沐浴とおむつ交換について赤ちゃん人形を用いて体験し学ぶ。 ④ 子どもの食事介助で起こる様々な事故をふまえて、実際に大人が食べさせられる側になって子どもへの食事介助を考える。 ⑤ 子どもの事故実態を踏まえて、事故防止について考える 						

科目名	保育実習指導 I	単 位	面接 2 単位	配当 年次	2 年次	授業 形態	演習
教科書	特に使用しません。授業中にプリントを配付します。						
持参物	筆記用具 絵本（乳児向けと幼児向け各 1 冊ずつ） 季節のうた等の楽譜 模擬保育で使用する準備物（最終日）						
備 考	実習に備えて絵本の読み聞かせの練習、弾き歌いの準備をしておいてください。						
授業内容	<p>授業のねらい</p> <p>保育実習の意義・目的を明確なものとした上で、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について、具体的で応用可能な形での理解を図ることを目指します。</p> <p>授業の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義 2. 実習の準備 3. 保育施設の理解～保育所実習 4. 保育施設の理解～施設実習 5. 子どもの観察の注意点/保育所の日 6. 実習記録の意味 7. 実習記録の書き方（1） 8. 実習記録の書き方（2） 9. 絵本の読み聞かせ 10. 子どもとの関わりを考える 11. 指導計画案のねらいと目標 12. 指導計画案の内容の考え方 13. 指導計画案の立案 14. 模擬保育 15. 実習に向けて課題設定 <p>評価方法</p> <p>受講態度や授業への参加姿勢・意欲、提出物、実技（指導案の作成・実演）等を総合的に評価します。</p>						

科目名	障害児保育 I	単位	1 単位	配当年次	3 年次	授業形態	演習
教科書	参考資料等の配付プリント						
持参物	筆記用具						
備考							
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の理念。保育士や教員になるために障害児保育や特別支援教育を学ぶことについて。 ・ 障がいとは: 「障害があるとはどういうことか」について、WHO の障がいの考え方や環境的な要因を考えた場合の「障がい」について ・ 歴史の中での障がい児者はどのように生きてきたか、社会の構造の中でどのような位置づけにあったかを学ぶ。 ・ 文化社会の中で活躍する障がい者について、具体的な例について学ぶ。特に多様な能力を発揮している人々が多くいることを知る。 ・ 様々な障がいについて 1) 視覚障がい、聴覚障がいについて具体的にどのような状態かを理解し、指導方法について学ぶ ・ 様々な障がいについて 2) 知的障がい、肢体不自由、病弱について具体的にどのような状態かを理解し、指導方法について学ぶ ・ 障がい保育、教育の特化した領域（自立活動）について学ぶ ・ 合理的配慮について（障がい者の権利に関する条約批准以後の社会）、具体的な事例を通して理解する。インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について、それぞれどのように関連しているか学ぶ。 ・ まとめ 						

科目名	障害児保育Ⅱ	単位	1単位	配当年次	3年次	授業形態	演習
教科書	参考資料等の配付プリント						
持参物	筆記用具						
備考							
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいについて、義務教育段階でどの程度支援を要する子どもたちが存在しているか知る。 ・自閉スペクトラム症(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの認知的特性と基本的対応や支援の在り方について学ぶ ・注意欠如多動症(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。 ・学習障害の理解と指導・支援:SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題を実例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。 ・保護者、専門機関、地域との連携による支援、保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築。専門家との連携、コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。個別の支援計画、連携の在り方について学ぶ。 ・障害児保育の現状と今後の課題について学ぶ。特に、就学前に子どもの状況を把握することと、就学後につなげていくことの重要性を理解する ・発達検査について、その支援、教育での活用について学ぶ ・まとめ 						

科目名	保育実践演習 I	単 位	1 単位	配当 年次	3 年次	授業 形態	演習
教科書	特に定めず、必要に応じて参考文献等を紹介すると共に、参考資料を提示・配布する。						
持参物	保育実習時の実習記録および筆記用具						
備考	この授業は、これまでの保育士課程での学びの総決算として位置づけられるものであり、保育実習を含め、これまでの保育士養成課程全体を通して、保育士として必要な専門的知識や技術、幅広く深い教養、的確な判断力、専門職としての倫理観等が身についたか、これまでを振り返り検証する。授業内容の中核として、以下の各項目を含みます。						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○保育士（養成）課程での学び・気づきの再確認 ○保育実習 I（保育所実習）の意義と目的についての再考 ○保育実習 I（施設実習）の意義と目的についての再考 ○保育実習 II あるいは保育実習 III の意義と目的についての再考 ○保育実習 I（保育所実習）のふりかえり ○保育実習 I（施設実習）のふりかえり ○保育実習 II あるいは保育実習 III のふりかえり ○保育実習で得た知見と生じた疑問に関するディスカッション ○保育に関わる諸技術の向上に向けた働きかけ ○社会福祉従事者としての保育士という観点の獲得 ○改めて「子ども」について考える ○「現代と保育」をテーマにしたディスカッション ○「日本と保育」をテーマにしたディスカッション ○保育士に求められる職業倫理の再確認 ○保育の場で活用・応用が可能な知識・技術についての考察 						

科目名	保育実践演習Ⅱ	単 位	1 単位	配当 年次	4 年次	授業 形態	演習
教科書	特に定めず、必要に応じて参考文献等を紹介すると共に、参考資料を提示・配布する。						
持参物	保育実習時の実習記録および筆記用具						
備考	保育実践演習Ⅰ同様に、この授業も保育士課程での学びの総決算として位置づけられ、保育実習を含め、これまでの保育士養成課程全体の学びや気づきを振り返ると共に、それらを援用しながら、今後の職業生活をはじめ多様な生活局面に生じる諸問題に対処できる実践力を養うよう努めたい。						
授業内容	<p>授業内容の中核として、以下の各項目を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代の保育観の概要とその源流についての確認 ○保育の本質に関する考察—介護との比較・対照の視点から ○保育の本質に関する考察—教育との比較・対照の視点から ○家庭との連携・協働の実際についての検討 ○地域住民との連携・協働の実際についての検討 ○児童福祉関連諸施設との連携・協働の実際についての検討 ○保育関連時事問題の考察—〈待機児童問題〉 ○保育関連時事問題の考察—〈保育無償化〉 ○保育関連時事問題の考察—〈保育事故の防止・予防〉 ○保育関連時事問題の考察—〈保育士配置基準〉 ○保育関連時事問題の考察—〈家庭養護としての里親〉 ○病児・障がい児保育の現状と課題についての確認 ○子どもと保育者の個性を尊重した保育についての検討 ○保育士養成課程での学びや気づきの他領域への応用の可能性の検討 ○保育士課程に学ぶ後進に向けた「保育実習マニュアル」の作成 						

科目名	子ども文化演習	単 位	面接1単位	配 当 年 次	4年次	授 業 形 態	演習
教科書	なし						
持参物	筆記用具 はさみ カッターナイフ						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども文化の歴史や定義ならびに子どもの遊び、子どもの発達などについての理解を促す。 ・子どもの遊びについての知識と理解を促すとともに、多様な演習を通して保育や授業に活かせる実践的で創造的な技能を育成する。 						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○子ども文化とは？ <ul style="list-style-type: none"> ・文化を考える ○子どもとは？ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをアートの視点でとらえ直す ○子ども文化の歴史 ○「遊び」とは何か？ ○泥団子を作ろう ○お絵描き遊びをしよう <ul style="list-style-type: none"> ・身近な描画材料を使って ○水を使って遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・色水作り等 ○シャボン玉で遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・昔のシャボン玉作り ・身近な材料でシャボン玉作り ・大きなシャボン玉を作ろう ○昔の玩具で遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉、けん玉、コマ回し等 ○伝承遊びに取り組もう <ul style="list-style-type: none"> ・あやとり、わらべうた等 ○その他の児童文化財に触れよう <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、紙芝居等 ○授業のまとめと振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・『まとめレポート』作成 						